



川村さん

負担するものです。また、お子さんが生まれたとき助産費として十万円を、加入者が死亡のときは葬祭費として四万円が支給されます。

財源は国の補助金と保険税

田沢 これらの運営と、財源はどうなっているのですか。

課長 国保の事業を運営するもの。これを保険者といい、私たちの住んでいる市町村で、白根市です。これらの財源はほとんどが国からの補助金と、皆さんから納めていただく保険税によってまかっています。したがって医療費の支出が多くなれば、国の補助金はある程度決ま



を代える受診の仕方は、医療費の無駄使いにつながることをよくわかっていただきたいのです。次に、健康づくりについてですが、国保事業は加入者みんなが健康であれば、その運営も楽になり、皆さんの負担も軽減されるわけですから「健康」はいわばこの事業の原点であるといえます。市の健康づくりは、保健会、母子保健推進委員会、食生活改善推進委員会の関係組織の協力をいただいて、乳幼児からお年寄りまでを対象にした生涯事業として取り組んできています。事業の中心は、やはり病気の予防指導と早期発見に力を入れています。特に乳幼児検診では受診率は九〇%以上で、そ



金子さん

っていますから、その分だけ保険料も増やさなければ、国保会計はパンクしてしまいます。保険税はそれぞれ市町村の実情に応じた率で課税されています。課税は各世帯の被保険者数やその前年度の所得などを基準に決められ、限度額は二十八万円となっています。

難しい医療費支出の予測

川村 老人保健法によって、老人医療費の国保負担分が減れば、それだけ保険税も安くなるのではないですか。

課長 すでにご承知のとおり国保財政の中で老人医療費は肥大化を続けていたわけで、これらを救うため今年の二月一日から老人保健法が施行され、お年寄りの医療費を国保から切り離して別建てにしたわけです。しかしながら、国保会計は市の一般会計予算と違って正確な予測が難しいのが悩みです。というのは加入者の皆さんがどんな病気にかかり、治療を受けるかは

のほか成人病、老人検診ともにもますますの受診者数となっています。また、市民ぐるみの健康づくりを進めるために、五十三年度に国の指定を受けて「健康づくり推進協議会」を発足させ、社会教育事業や福祉事業などと連けいた総合的な運動を進めています。十月二十三日に開催の健康展もその一つです。

高めたい食生活の改善

金子 健康をより増進させる手段などについての考え方はどうですか。

課長 やはり日常の食生活ではないでしょうか。しかしどんなものをどうして料理するかはなかなか大変なことですね。そんな時は食生活改善推進員が各地区にいらつしやいます。またそれぞれの地区で指導会を設けるなどの活動もしていますので、お気軽にご相談ください。しかしこうした指導会への出席率が低いと金子さんのご意見ですが、開催時期などの問題もあるかと思えますし、健康づくりの大切な事業の一つですので、私たちもよく考えてみたいと思います。



斎藤市民生活課長

まったく予測はできません。保険税を納める皆さんの立場からはできるだけ安い保険税ということはよく理解できるのですが、皆さんが安心して医療にかかれるように、また、不測の事態にも混乱をしないよう、全国的な医療の動向や過去の例などから検討して、保険税を決めているわけです。

健康づくりが国保の原点

田沢 課長さんのお話の中で医療費の支払いが多くなれば、保険料の負担も大きくなることでしたが、その防止対策とか、市民の健康づくりについて、市の考え方を聞かせください。

課長 予算支出の九四%がお医者さんなどへ支払ったお金ですので、医療費にもっと関心を持ってもらおうと、医療費の支払通知書を年二回、皆さんにお届けしてきています。ただ、誤解されると困りますが、私どもはお医者さんにかかるなどについてはあるのではありません。次々とお医者さん

ここに掲載したのは、話し合いの中からその一部です。九月十六日、午前九時三十分から二時間にわたっていろいろな質問を、四人の方から市民生活課長に出していたできました。最終的には、健康づくりが国保運営の大きなカギを握っているということ。市では、検診こそ健康につながる最善策だと考えています。循環器検診をはじめ肺ガン検診、子宮ガン検診などの無料検診を実施してきています。ただ、こうした機会を生かしてくれるかどうかは、市民のみなさん自身が健康についてどのように考えているかにもなるかと思えます。「忘れていた」との声も多分に聞かれます。

★★★★★

十月九日からは、市民総合スポーツ大会が開催されます。市でもこうした健康推進事業は今後も実施しますので、参加して、あなたの健康をチェックしてください。



田沢さん

まま全体の医療費の伸びに大きく影響しているといえます。次に、保険料(税)の調定額は五十一年度の二万二千四百七十七円から一・六倍の三万六千九百十二円に増えています。年平均八・五%の伸びで医療費の伸びには追いつかない現状となっています。

県平均と比較すると...

では、一人当たりの医療費などを県平均と比較してみましよう。医療費はほぼ県の平均で、最も低い栗島浦村とでは一・五三倍になっています。

老人医療はどうでしょう(58年1月まで)。一人当たりの費用は県平均が二十七万一千四百五十七円に對し、その一・一六倍の三十一万四千九百六十八円です。

国保加入者のうち老人医療対象者が、県平均とほぼ同じに對して一人当たり費用が多いということは受診率が高くなっているからです。具体的には、白根のお年寄りはお医者さんにかかる回数が多いということになります。

市民の死亡原因のすがた

昨年一年間、市民の死亡原因の

上位は三大成人病といわれる「脳卒中」「がん」「心臓病」が占めています。成人病はいまでは子供のときから発生して、ジワジワと進み、中年のころ病氣として本格化し、絶対にもとどおりによくなるらないというものです。成人病は、日常生活のあり方に発生原因があります。ですから、達者にくらすには、家族の生活管理が大切です。一番気をつけなければならぬのは食事です。中でも塩分の取り過ぎは要注意です。塩分摂取量の理想は一日十グラム以下といわれています。しかし実際にはどれだけ取っているかはわかりません。

もし自分がどれだけ取っているかを知りたい人は、少なくとも三日間食べたものを全部書き出し、保健婦にご相談ください。

